



## ウンカ類発生状況報告書



(トビイロウンカ発生程度別基準)

※要防除水準

程度	無	少	中	多	甚
株あたり虫数	0	1～5	6～21	21～50	51以上

(セジロウンカ発生程度別基準)

※要防除水準

程度	無	少	中	多	甚
1株あたり虫数	0	1～10	11～50	51～100	101以上

(ヒメトビウンカ発生程度別基準)

※要防除水準

程度	無	少	中	多	甚
1株あたり虫数	0	1～2	3～5	6～10	11以上

(植物防疫協会 イネの病害虫より)

## 【調査結果】

調査日:令和4年8月16日

調査田	捕殺数(株あたり虫数)		
	トビイロウンカ	セジロウンカ	ヒメトビウンカ
岸和田市積川町	0頭	0.013頭 ※75株当たり1頭捕殺	0.093頭 ※75株当たり7頭捕殺
和泉市黒石町	0頭	0頭	0.013頭 ※75株当たり1頭捕殺
泉大津市虫取町	0頭	0頭	0.067頭 ※75株当たり5頭捕殺

※要防除水準とは・・・

農薬による病害虫防除の必要性について判断する基準で、これ以上病害虫の発生が多くなると収量や品質に悪影響を与える恐れがあります。

## 総括

今回の調査では岸和田市積川町の調査田でセジロウンカが 1 頭確認されましたが、直ちに防除しなければならない状況(要防除水準以上)ではありませんでした。ヒメトビウンカについても、同様の状況ですが、前回にもお伝えしました通り、斑点米カメムシ類が増加する時期となっておりますので、ウンカ類・カメムシ類の両方に効果のある薬剤の予防的散布に努めてください。

ウンカ類とカメムシ類の両方に登録のある農薬

種類	農薬名	施用時期	成分数	トビイロウンカに対する有効成分	IRACコード
殺虫剤	エクシードフロアブル	収穫 7 日前まで	1	スルホキサフロン	4 C
	アルバリン粒剤	収穫 7 日前まで	1	ジノテフラン	4 A
	スタークル豆つぶ	収穫 7 日前まで	1	ジノテフラン	4 A
	キラップ粒剤	収穫 14 日前まで	1	エチプロール	2 B
	ダントツ粒剤	収穫 7 日前まで	1	クロチアニジン	4 A
	トレボン乳剤	収穫 14 日前まで	1	エトフェンプロックス	3 A

※キラップ粒剤の斑点米カメムシ類に対する散布適期は出穂 10 日前～出穂期であるので遅れないように注意しましょう。

頭の形がとがっている



セジロウンカの姿

頭の形が丸みを帯びている



ヒメトビウンカの姿



セジロウンカのヒメトビウンカの実際の大きさ